



アコースティックバンド「テノヒラ」のボーカル 愛南町出身の kiku さんがつづるふるさとエッセイ

— あいなん音故地新 —

伝える

『人に云う』と書いて『伝』。自分の気持ちは言葉にせんと伝わらん。食事をしているとき、仕事で嫌な思いをした、と友人が話し始めた。それはあまりにもひどい扱いで、聞いてた私も悔しさで涙がこぼれそうなほど。友人がこんな目に遭わされたという怒りと、自分の似たような経験を思い出して悲しくなったのと。私はそのとき一緒になってブツブツと(いや、鼻息を荒げてグフグフと)文句を言うことしかできんかった。それから数日後、あの日のことを上の人に伝えたよ、と報告を受けた。そして、対応や環境に問題があったことへの謝罪と、改善する約束をもらった。彼女がここでいつかの私のように悔しさで泣くことしかしてなかったら、この条件で満足して仕事をしとると思われて、謝罪も改善もなかったやろう。そうなると、そんな仕事やそんな考えの人しか集まってこんよになる。不満って言いだしづらいけど、変えられるのは自分だけ。自分を守るのも自分だけ。言葉にせんと伝わらん。伝えて知ってもらって大事やね。ということ友人から学んだのでした。

そして、卒業する皆さん。卒業おめでとう。キラキラと輝く未来に飛び込み、夢に近づいたり遠ざかったりしながらも、一步一步しっかりと歩いてほしい。そして、しんどいときは道の途中でふと振り返ってみて。ふるさとはいつもここにあるよ。(テノヒラkiku)



御荘文化センター図書室より

“3月の新着図書ピックアップ”の紹介

【絵本】

『のうじょうのいえ』
ソフィー・ブラッコール(作)
評論社(発行)

おかのむこうの、みちのはて、まがりくねってながれるきらめくかわのほとりに、いっけんのいえがたっている…。この家で12人の子どもたちが生まれ育ちました。オーバーオールのお父さん、大切に抱っこされてる白猫、たんぼぼやひなげしの壁紙。細部まで描きこまれた色彩豊かな絵に静かなため息が出ます。



【ノンフィクション】

『翻訳する女たち』
大橋 由香子(著)
エトセトラブックス(発行)

大人になる前に戦争を経験し、翻訳者も編集者もほとんど男性だった頃の出版界に飛び込み、半世紀以上も翻訳をしてきた女性たち、中村妙子、深町真理子、小尾芙佐、松岡享子。また、フェミニズムの翻訳に力を尽くした、加地永都子、寺崎あきこ、大島かおり。丁寧なインタビューをもとに、彼女らの人生を綴る。



御荘文化センター図書室では、毎月「御荘文化センター図書室だより」を発行しています。図書室だよりを通じてピックアップ図書以外の新着図書情報やそのほか新しい情報を皆さまに発信しています。町のホームページにも掲載していますので、ぜひご覧ください。



愛南町
ホーム
ページ